

クロピドグレル錠75mg「JG」の溶出試験

1. 試験目的

クロピドグレル錠75mg「JG」と標準製剤プラビックス錠75mgとの溶出挙動の類似性を確認するために、「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」に従い溶出試験を実施した。

2. 試験条件

試験法	回転数 (rpm)	試験液	温度 (°C)	試験液量 (mL)	ベッセル数	分析法
パドル法	50	pH1.2(日本薬局方 溶出試験第1液)	37±0.5	900	12	紫外可視 吸光度測定法
		pH4.0(薄めたMcIlvaine緩衝液)				
		pH6.8(日本薬局方 溶出試験第2液)				
		水				
	100	pH4.0(薄めたMcIlvaine緩衝液)				液体クロマト グラフィー

3. 判定基準

回転数 (rpm)	試験液	判定基準
50	pH1.2	標準製剤の平均溶出率が60%及び85%付近となる適当な2時点において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあるか、又はf2関数の値が42以上である。
	pH4.0	標準製剤の平均溶出率が40%及び85%付近の適当な2時点において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあるか、又はf2関数の値は42以上である。
	pH6.8	標準製剤が規定された試験時間における平均溶出率の1/2の平均溶出率を示す適当な時点、及び規定された試験時間において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±9%の範囲にあるか、又はf2関数の値が53以上である。
	水	標準製剤の平均溶出率が60%及び85%付近となる適当な2時点において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあるか、又はf2関数の値が42以上である。
100	pH4.0	標準製剤の平均溶出率が60%及び85%付近となる適当な2時点において、試験製剤の平均溶出率が標準製剤の平均溶出率±15%の範囲にあるか、又はf2関数の値が42以上である。

4. 試験結果

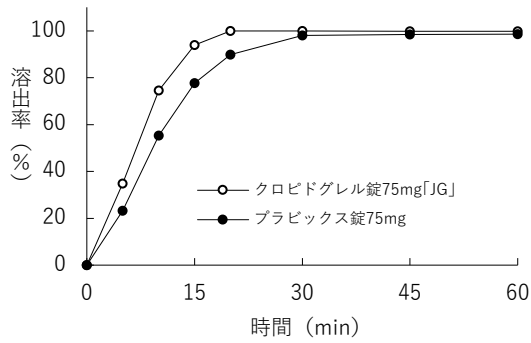
pH4.0(50rpm/100rpm)及びpH6.8(50rpm)では、判定時点における試験製剤の平均溶出率が判定基準に適合した。また、pH1.2及び水(50rpm)では、f2関数の値が42以上となり、判定基準に適合した。

判定時点における平均溶出率

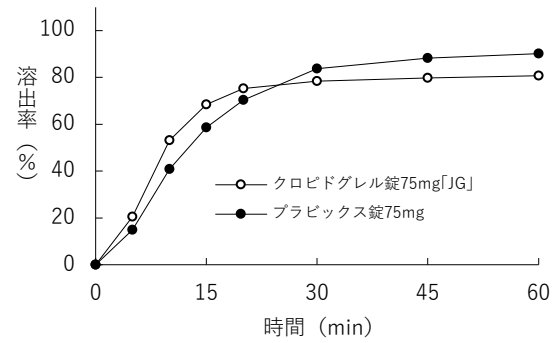
回転数 (rpm)	試験液	判定時点 (min)	平均溶出率(%)			判定
			標準製剤	試験製剤	差	
50	pH1.2		溶出率から算出したf2関数: 51			適
		10	40.9	53.2	12.3	
	pH4.0	30	83.8	78.4	-5.4	適
		5	10.9	12.1	1.2	
	pH6.8	360	23.9	22.0	-1.9	適
	水		溶出率から算出したf2関数: 52			適
100	pH4.0	10	60.5	75.0	14.5	適
		20	84.3	83.3	-1.0	

溶出プロファイル

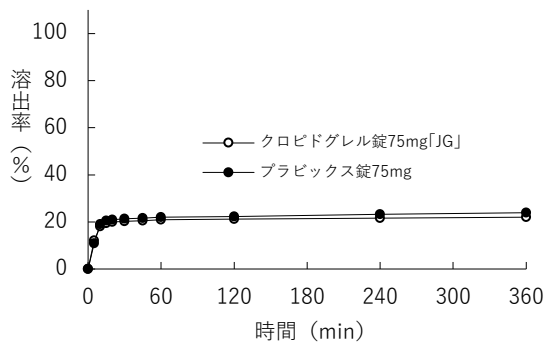
50rpm、pH1.2



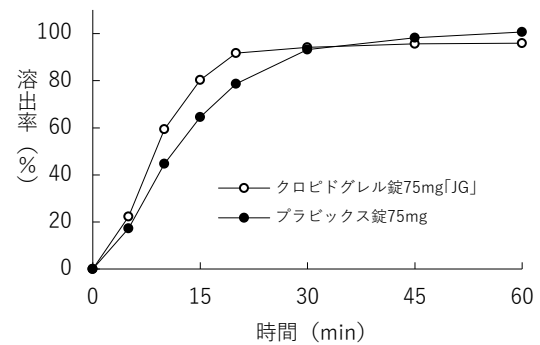
50rpm、pH4.0



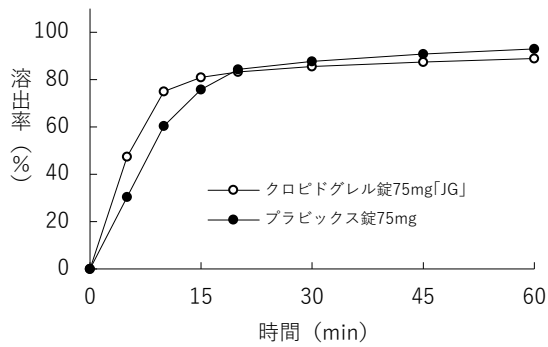
50rpm、pH6.8



50rpm、水



100rpm、pH4.0



5. 結論

「後発医薬品の生物学的同等性試験ガイドライン」に従いクロピドグレル錠75mg「JG」の溶出試験を実施し、すべての試験条件においてガイドラインで定める類似性の判定基準に適合し、標準製剤プラビックス錠75mgとの溶出挙動の類似性が確認された。

2023年11月

003